

だれもが安心して安全に暮らせる別府市条例をつくる会

# アンケート説明

1, 実施時期 2011年9月～12月

2, 回答人数 287名

3, 内訳

(1) 項目別件数

①相互理解	100件
②権利擁護	18件
③生活環境	71件
④雇用就労	30件
⑤保健・医療	25件
⑥保育・教育	30件
⑦生活支援	74件
⑧芸術・文化・スポーツ	1件
⑨安全・防災	9件
⑩その他	58件
件数合計	416件

(2) 記入者

本人 143名 父母 92名 兄弟(姉妹) 7名 配偶者 5名 本人・父母 2名  
子ども 1名 祖父母 1名 配偶者・父母 1名 支援者 22名 記入なし 13名

(3) 性別

男性 157名 女性 82名 記入なし 48名

(4) 年齢

10歳未満 9名 10代 40名 20代 35名 30代 52名 40代 47名 50代 29名  
60代 26名 70歳以上 25名 記入なし 24名

(5) 手帳の種類

身体 121名 知的 66名 精神 31名 重複 31名 (知的・身体 24、知的・精神 4、知的・身体・精神 2、身体・精神 1) 持たない 14名 記入なし 24名

(6) 内容について

多くの具体的な指摘がたくさん書き込まれています。

「バリアフリー化」については、バス・JR・タクシーなどの公共交通機関、障がい者用駐車場、道路や建物の段差などについて、身体障がいのある方を中心に多くの具体的な問題点の指摘がありました。

「差別・無理解」については、知的・発達障害の子どもに対する周囲の対応、また学校におけるいじめや学校側の対応などについて、親からの指摘が多くありました。一方、地域の人々の協力や声掛け助けられたという声もありました。精神障がいについても、無理解を指摘する声が多く、小・中学校などからの障がいや心も病気に対する教

育の必要性などを望む声、また緊急時の対応など切実な声も多く出されました。

特筆すべき点としては、3 障がいとも「親亡き後」に対する不安の声が多く出されています。本人の不安だけでなく、親に大きな負担がかかっており、親は「病気にもなれない」、そして「死んだ後を安心して託せるところを持たない」という現実が浮き彫りになっています。

この他にも重要な指摘がたくさんあり、一人ひとりの声をしっかり受けとめた議論がこれから必要になってくると考えます。

今後、議論を進めていく上での課題としては、分類に入りきれないテーマをどうするか（“親亡き後” など）、担当課や関係団体との意見交換等が必要なテーマの場合（安全・防災、教育等）の対応などがあると思います。

小野久・委員提出